

経営会議・会議録概要

I、日 時 令和3年8月4日(水) 午後2時～4時

II、場 所 委員会室

III、出席者 経営会議構成員(人権政策監の代理出席として市民生活部総括次長)
政策推進部総括次長、政策推進部行政サービス向上室次長、同室課長、係員
政策推進部戦略企画課長、同課長補佐

IV、案 件

- 1 庁舎整備基本構想案について
- 2 令和3年度部運営方針案について
- 3 その他

V、内 容

【副市長】

- 経営会議を開催する。
- 本日は、行政会議の見直しを受けて、初めての経営会議となる。
- 経営会議は、市長と特別職、全部長が参画して、市の重要施策等の政策決定を行う会議体である。
- これまでは特別職と数名の部長で行っていた「戦略会議」であったが、全部長にまで拡げることで、各部の長はひとつの部の長であるとともに、市の経営者であるという意識のもとで参画いただき、議論していただき、政策決定に関わっていただくということになる。
- それでは市長より一言頂戴する。

【市長】

- 経営会議は、経営というものに皆さんの意識を向けていただきたい。
- 活発な意見交換による政策の質の向上、幹部職員として全庁的な視点にたって議論する風土の醸成、政策形成過程の明確化という3つの柱を基に構築した行政会議である。
- 政策の決定をするときに、どういったプロセスで決定されたのかということを発信することで、これまで以上に庁内理解や市民理解を進める必要がある。

- 皆さんの意見があったり、合意があったり、肉付けがあったりしながら、そういったプロセスがあって政策が決定されていくということが、まさに「経営」という概念である。
- 今年度より、皆さんはその一員であり、そのプロセスを体感していく中で、それぞれに分散責任や分散の担いの一端があるということを確認いただいて、これからも充実・発展をさせていきたい。
- 本日の経営会議の実のある進行と内容によって、今後の行政会議の実をさらに大きくしていきたいと思うので、よろしく願います。

【副市長】

- 本日は、審議事項として「庁舎整備基本構想案について」と、「令和3年度部運営方針案について」の2件である。

1 庁舎整備基本構想案について

(1) 主な意見

【副市長】

- それでは、「大東市庁舎整備基本構想(案)」について審議を行う。
- またあわせてパブリックコメントの報告も行っていただく予定である。

【政策推進部長】

- 庁舎整備基本構想案については、別途推進本部において議論を重ねて今に至っている。これまでの議論について深く感謝を申し上げる。

【行政サービス向上室課長】

《配布資料に沿って説明》

【副市長】

- パブリックコメントについて、意見は何件でできたか。

【行政サービス向上室課長】

- 現在集計中。22人の方からご提出いただいたが、複数意見を提出されている方もいるため、おおよそ70～80件程度。

【副市長】

- これまで推進本部会議の中で議論を行ってきた内容ではあるが、一言ずつご意見をお願いしたい。

【理事兼総務部長】

- この構想案については、柔軟性・可変性がキーワードとなっており、私自身もこの考え方に賛成している。
- 今後、構想案の中身を精査していく中で、行政のデジタル化との関係が重要となってくる。仕事のやり方そのものを見直し、その結果を新しい庁舎レイアウトに反映させていく必要がある。スケジュール感を考慮しながら、全庁一丸となって進めていく必要がある。

【危機管理監】

- パブリックコメントが22人というのは残念。パブリックコメントの中で厳しい意見もあるが、それらを解決してこそ良い施設ができる。
- 全庁一丸となり、早く庁舎ができるようがんばっていきたい。

【政策推進部長】

- 昨今、地震が頻発している。早急に庁舎整備を進めていく必要がある。かなりタイトなスケジュールであったところもあるが、皆様のご協力に感謝したい。
- 今後は、課長等と共にレイアウトを検討していく段階に入っていく。ご協力をお願いする。

【市民生活部長】

- いまでも市民会館での整備がよかったという思いはある。
- 庁舎は一度整備されれば、その後 50 年以上変わることはない。これから設計に進んでいき、建築の細かいレイアウトなどを考える必要が出てくるが、時代の流れとともに変化することもあれば進化する技術もある。様々なものを取り込みながら

最高のものにしていきたい。やっと前に進むこととなる。良いものを目指したい。

【市民生活部総括次長】

- 誰もが利用しやすい庁舎、様々な地域活動の拠点となる庁舎になればよい。

【福祉・子ども部長】

- ようやく始まるという気持ち。今後は中身の話を積極的にしていきたい。特に窓口は重要。利用者の利便性を頭に入れて積極的に意見を出していきたい。

【保健医療部長】

- 53ページの民間活用についての事業手法は採用すべき。ただし、パブリックコメントでは、反対意見が出てきている。ここが1つキーになる要素と考える。

【都市整備部長】

- 市役所は市民に最も利用される場所であるが、パブリックコメントが少なく残念に思う。
- コロナ禍もあり、社会情勢は、今後どんどん変化していく。庁舎が完成した時にいいものが出来た、しっかりと先を見据えて作ってくれたと認めていただけるようなものにしていただきたい。

【産業・文化部長】

- 現地がよいと意見をいってきた。コストも考えた概要になっている。これからは市民サービスをどうやっていくかが、場所以上に重要なこととなる。いい意見を提供していくことができればと考えている。

【会計管理者】

- これからレイアウトを考えていくことになるが、職員が何をしているのか、市民からわかるような庁舎、市民に優しい庁舎になればよいと思う。

【教育総務部長】

- 今後、基本設計や詳細設計、引っ越し等庁内調整がでてくるが、ぜひ若い職員

の話を聞いていただきたい。

- コロナ禍で手続きについても大きく変わっている。行き当たりばったりではなく統一的なレイアウトにしていきたい。

【学校教育政策部長】

- 今後、全く想定されていないような変化が起こることも考えられる。可変性をしっかり担保し、変化できる余地を庁舎に残していきたい。

【選挙・監査・公平事務局長】

- 次の世代につながるよう、仕事をしやすい状況を作ることでできるよう頑張りたい。

【上下水道局長】

- 下水道については、将来的に統合も考えられる。レイアウトについては柔軟に検討していきたい。

【理事兼議会事務局長】

- 議会案件として押さえておく視点が重要。構想案がそのまま確定ということではない。この場所で、耐震改修＋増築が確定するかどうかということ。
- 今後、時代に即したフレキシブルな庁舎にするため、しっかりと協議しながら、市民にとって最高のものを作る必要がある。これからスタートである。

【教育長】

- ようやくスタートラインにたった。市民の利便性と職員の働きやすさを考えた庁舎としていく必要がある。そのためにもどういった働き方が理想的かといったことも考えていく必要がある。
- 「既存耐震＋増築」という文言の響きからは、大きな変化が起きないと想像してしまう。しかし、構想案を読み解くとそうではないため、生まれ変わるイメージをしっかりと説明していくべきである。

【上下水道事業管理者】

- これからの時代にあった新しい庁舎、市民の利便性と職員の働きやすさを考えた庁舎を楽しみにしている。

【副市長】

- 決して実施計画案が出来たわけではない。構想案での経費や規模についてはあくまで目安であり、これから細部について議論が必要である。皆の共通認識があるわけではない。これからの議論がますます重要になる。

【市長】

- これまでは、新たな庁舎がどんな形で出来上がるのかといった定点観測の議論となっていたのではないかと。庁舎は定点観測ではなく流動性があるもの。世の中の変化のもと、増築棟や既存棟の使い方が変わっていく可能性があることを自覚いただきたい。
- すべての整備が完了した時点が新しい庁舎のスタートではなく、増築棟がたった時点、着手した時点、準備でレイアウトの議論が始まった時点で、新しい庁舎がはじまったと思ってほしい。
- 定点観測ではなく、その時々々に最善の庁舎に改善して発展させていくように。

【政策推進部長】

- 会議室をバルコニーのように密室ではない空間にするなどオフィスビルの在り方にも変化が見られる。
- コロナ禍のように、今後も常に改善や変化を強られる状況が発生する可能性もある。柔軟性、可変性というところを日々研究していきたい。

【副市長】

- どういった庁舎がふさわしいかという議論のスタート地点に立ったという認識のもと、大東市庁舎整備基本構想案を市として政策決定をしたいと思う。
- それでは、大東市庁舎整備基本構想案を市として政策決定してよいか。

【全員】

- 異議なし

【副市長】

- それでは、これをもって「大東市庁舎整備基本構想(案)」について政策決定を行う。

2 令和3年度部運営方針案について

(1) 主な意見

【副市長】

- 続いて、「令和3年度部運営方針案」について審議を行う。
- それでは、政策推進部より説明をお願いします。

【政策推進部長】

- 4月から新たな総合計画・総合戦略をスタートしたことを捉えて、各部の方針も総合計画・総合戦略を基本的に紐づけたい、また各部の情報共有を図りたい、ということで部運営方針のアップデートをしていく。

【戦略企画課長】

《配布資料に沿って説明》

【副市長】

- 今年度よりこういった形で部運営方針を策定することとなった。これに基づき、幹部会議において進捗を見ていく。
- この作成を通じて、何か気づいた点や改善点、分かりづらい点など、何かあれば意見を頂戴したい。

【市民生活部長】

- 資料2-1の評価検証のサイクルの中で、外部施策評価(審議会)とあるが、外部評価はどのようなメンバーでどのような審議をするのか。

【戦略企画課長】

- 策定時にも開催していた「総合計画・総合戦略審議会」を想定している。議員・市民・有識者等で15名ほどの構成員である。評価の方法については、KPIの進捗状況や市民アンケートの結果等を踏まえてご意見を頂戴したいと考えている。

【市民生活部長】

- 審議会のメンバーは毎年入れ替わるのか。

【戦略企画課長】

- メンバーについては今後検討していくこととしているが、今年度については策定に関わっていただいた方に引き続きお願いできればと考えている。ただしあて職があるため、メンバーが変わることはあると思う。

【副市長】

- 外部評価と議会との関係は。

【戦略企画課長】

- 審議会には議員にも参画いただいているとともに、合同委員会報告会においても報告をしていく予定。

【市民生活部長】

- 審議会において構成員の方々から要望や要求があるのか。行政組織としては監査委員や決算審査などで評価しているため、棲み分けが必要では。

【戦略企画課長】

- 審議会では、総合戦略全体の枠組みの中で進捗を報告し、ご意見をいただくものであり、その意見を踏まえて総合戦略への反映の有無等については、またこのような会議の場で幹部職員等と議論をしていく必要があると考えている。

【政策推進部長】

- 策定時の審議会において、進捗を報告してほしいというご意見があった。部運営

方針がリニューアルしていなくても、総合戦略の進捗については毎年報告することになっていた。

- 決算の際の事業レベルで見てもらふようなイメージではなく、KPIに対してどの程度進んでいるかといった報告を想定している。

【理事兼議会事務局長】

- 今までは各部で独自に部運営方針を様々な視点で作っていた。今回は、改定した総合計画・総合戦略に即した部運営方針を作成するという形でリニューアルされた。これによって、それぞれの取組みや重点分野、庁内の取組みを各部で見えていく、そして市長面談をして、総合計画・総合戦略の策定に関わっていただいた外部委員に見ていただいて、市の方向性に外れていないか、を確認していただく、という流れだと理解するがそれでよいか。

【戦略企画課長】

- まさにその通りであり、審議会では総合戦略の全体的なところから確認をいただくもので、各部の取組みについては総合戦略の軸から外れていないかということを幹部会議でチェックしていくこととなる。

【副市長】

- 今回のリニューアルによって、他の部の方針がどのような考え方で進めていくかをみられるようになる。そのことによって、情報の共有とともに、他の部のことも参考までに意見を言うこともできる。
- 他の部の動きを見て、感じられることがあればお聞きしたい。

【危機管理監】

- 非常によいものを作っていたと思う。
- 総合計画は今まで評価をされていなかった。今回のリニューアルによって、各部の動きがよくわかる。そして切磋琢磨できる。さらには外部評価によって、遅れているところは頑張ろうということにもなる。そういうことが相乗効果を生み出し、総合戦略が達成できるのではないか。
- 監査委員というのは、毎月の予算の執行状況をチェックするものだが、これは各

部が同じ方向性をもってオール大東で責任感を持って進めていくことを確認するものであり、賛成である。

【都市整備部長】

- 今回作成するにあたって、政策推進部から示された案を大きく変えた。
- 総合戦略に紐づく取組みが多い中、項目についても精査を行った。その結果、部内でも議論をしていく中で、複数年度で取り組むものであって単年度では進捗がみられないものなどを加味し、最終的に重要なもののみ残したが、これでよいかどうか悩みながら行った。

【福祉・子ども部長】

- 従来と似たような内容を記載しているが、今回はそれらを見直したり振り返ったりする機会が出てくるので、それを部内でどう反映させていくか、というのを考えている。

【理事兼総務部長】

- 単なる部運営方針ではなく、総合計画・総合戦略という核があって、それに即して各部がどう取り組んでいくかという意識に替えていかなければならないと考えている。
- 各部の取組みや総合戦略の後追いというものがこれまでなかったので、よい取組みだと思うが、総務部では総合計画や総合戦略に紐づく取組みが少ないため、頭の切り替えが必要であった。
- これまでは抽象的な方針を作っていたが、今回はKPIもあるため、これまでとは違った考えで向き合っていく必要があると感じた。
- KPIについては、全庁的な取組があってこそ反映されるものであり、評価するにあたってはどの部署のどの取組みが貢献しているのかが分かりにくいので、その点をもっと研究していったらどうか。

【戦略企画課長】

- 今回の部運営方針では、総合戦略のKPIから転記しているが、そもそもの総合戦略においては、取組みとKPIを1対1の関係で設定しているものではなく、様々

な取組を全庁で取り組んでいく中で、KPIが達成されていくという仕立てにしている。

【理事兼議会議務局長】

- 総合計画の目標で、例えば、市民満足度の向上というものをほぼすべての部で記載していると思う。
- そうなると各部の取組みの特徴が見えづらくなる。

【政策推進部長】

- 内部管理系の部署は、行政サービス改革の項目に関連する記載が多くなっていると思う。
- 今までの計画は一度作ると見直しを図らないということが多々あったが、今回進捗管理をしていくということは、徐々に新しい課題が出てきてそれに対処していく必要が出てくれば、本体の計画や戦略を改定していくべきではないかということにもなる。部運営方針の変化が総合計画・総合戦略の改訂を促すということも念頭に置きながら、進めたい。

【保健医療部長】

- 評価検証サイクルの「次年度事業構想⇒予算フレーム・予算編成方針作成⇒予算要求・査定等」の流れについて、今までは企画・財政が作った予算編成方針を市長から降ろすトップダウンだったが、予算編成方針の前に次年度事業構想を各部で策定するというのであれば、皆でボトムアップ的に予算編成方針を作成するよう見える。
- また、審議会が出た意見は、どのように次年度事業構想に落とし込もうとしているのか。

【戦略企画課長】

- まだ財政課と詳細は詰めていないが、予算編成方針についても行政会議の中で幹部職員の皆さんで議論いただければと考えている。
- 審議会の意見は、各部にもお知らせし、それも踏まえて次年度事業構想を検討いただければと考えている。

【副市長】

- それでは市長から一言頂戴する。

【市長】

- これまでの総合計画に慣れてきた方々は、新しい総合計画・総合戦略の「身近感」がまだしっくりきていないのかなという印象を受けた。
- これまでは長期スパンの総合計画の下、途中で見直しはあるものの、すべてを網羅した市のきれいなお花畑のようなものをイメージして行政施策を進めてきたと思うが、改定後は総合計画・総合戦略が身近なものとして降りてきた、というイメージである。
- 昨日オリンピックでサッカーの試合があったが、この経営会議が強化チームだとして、KPIとしてオリンピックで金メダルを取ろうという目標を立てたとする。ゴールキーパーや守備など、それぞれのコーチがいるのだろう。昨日の試合では、キーパーを含めた8人が自陣の中でディフェンスを行い、あとの3人で攻撃し、なるべく点を取られないように90分を無失点で耐え、勝機があれば攻めるという戦略に見えた。
- 大阪桐蔭高校が夏の甲子園出場を決めたが、甲子園で優勝という目標を持ってバッティングコーチ、ピッチングコーチ、守備コーチ、トレーニングコーチなどが集まって議論しただろう。それを毎月報告しあいながら、甲子園の優勝をめざすという報告を聞く中で、そんなやり方でいいのかといった意見を言われることを恐れるのではなく、ゴールに向かって私たちはこんなことをやっているということをアピールしていく場ととらえてほしい。
- これまで取り組んできたことをなかなか伝える機会はなかったが、これだけできている、ということをお伝えする場である、と考えを切り替えてほしい。
- コーチが報告し合うこと、すなわち各部の取組みを確認し合う中で、総合力が上がってきているなど実感することも大事であり、皆の歯車が合わないとチーム力は上がらない。チーム力を上げる術を今回作り上げたのだと考えてほしい。
- 総合計画・総合戦略が、具体性のあるものに降りてきた。総合計画に向かって総合戦略を利用しながら、ゴールに向かっていく進捗について実現性が近づいていることを喜びながら、皆で共有し、さらなる高みに向かうエネルギーを生み出す

ようなそういった部の運営方針の構築であってほしい。

【副市長】

- 他になにかないか。
- それでは、令和3年度部運営方針案について、皆さんに確認する。
- この方針案で決定させていただいてよろしいか。

【全員】

- 異議なし

【副市長】

- それでは、これで決定し、市長決裁を得たのちに公表する。
- なお、文言修正があるかもしれないが、その場合は事務局と調整の上、修正を行うということで了解をいただきたいと思う。
- それでは、審議案件はこれにて終了するが、その他報告案件などはあるか。

3 その他

(主な意見)

【政策推進部長】

- 政策推進部より「押印の見直しの方針」について報告する。
- 押印の見直しについては昨年度から検討していたが、12月に国からガイドラインが示されたことから、それに沿った市の方針を作成したので、その説明をさせていただきます。

【行政サービス向上室長】

《配布資料に沿って説明》

【副市長】

- ただいまの報告案件について、不明な点はないか。

【市長】

- 象徴的な取組みとして、この方針の決裁の方法についても検討してみてもどうか。

【行政サービス向上室次長】

- 検討する。

【副市長】

- 他はよろしいか。
- それでは本日の案件はすべて終了した。
- 本日の決定事項については「経営会議審議決定書」を作成し、各部に通知する予定である。
- また、本日の会議の議事要旨は事務局にて作成の上、公表をする予定である。
- それでは、閉会にあたり市長から一言頂戴する。

【市長】

- 行政会議の様々な改善を図る中、経営会議として開催し、経営という概念や自覚のもと、発言・議論いただき、大きな方針の承認をいただいた。
- 引き続き、経営会議における決定は、皆さんの働き甲斐につながるのみならず、市民の満足度の向上や安心の創出につながるものにしていく、という認識のもと取り組んでいただきたい。

【副市長】

- それでは、これにて経営会議を閉会する。

(以上)